

・男女共同参画条例と啓発について
・大川市立図書館にお茶を
飲めるいやしの場を！
川野 栄美子 議員

問 イラストを活用したわかりやすい男女共同参画条例の意識啓発冊子ができないか。

答 わかりやすい啓発冊子は、男女共同参画の話をする際の一助となる。条例検討委員会を立ち上げてそこの意見を聞き検討したい。

問 大川市立図書館にお茶を飲める癒しの場ができないのか。

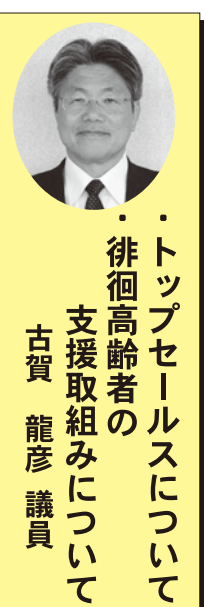
答 現在、館内での飲食は禁止をしている。しかし、図書館を利用されている高齢者の中には、館外のベンチで持参した弁当をとられる方もいる。このような状況に配慮するため、図書館内に場所を限定して飲食ができるスペースの設置を検討している。

問 館内で飲食のできる広さはどれくらいか。

答 人数で言えば、七、八人が利用できる程度のスペースである。

問 図書館中庭の芝の部分にお茶のスペースを作ってほしいとの声があるが。

答 私自身もそのようにできないかと思うが、本市も大変財政が厳しい。私の夢だが、図書館をリノベーションすることで、家具や建具、椅子など大川産を入れ、ある種の常設展示場のような形にしたり、飲食できるスペースを将来的につくることができればと考える。



・トップセールスについて
・徘徊高齢者の
支援取り組みについて
古賀 龍彦 議員

問 東京オリンピック開催は、ビッグチャンスだが、本市のトップセールスはどうか。

答 オリンピック関連施設に大川の家具、建具などの利用の働きかけを行う。また、海外の方が集まる所に、オール大川のアンテナショップなどを、作れないかと考えている。

問 家具木工業、農水産業、観光産業の具体的なトップセールスをどう考えているか。

答 本市の情報発信拠点をつくるなど、家具業界が潤うような施策を考えていく。農水産業は、素晴らしいものをブランド化して、市長自らPR隊長となり売り込みたい。観光産業は、大川を代表する観光資源の魅力を新聞テレビ等のメディアを活用して発信し、本市の知名度をアップしたい。

問 現在、徘徊高齢者への行政の取り組みは。

答 本市では、筑後地域9市3町で「高齢者等徘徊SOSネットワーク」の広域連携協定を締結し、24年10月からこのシステムによる徘徊高齢者等の早期発見に取り組んでいる。

問 柳川市、みやま市同様、携帯端末（GPS）で高齢者見守り事業に取り組むべきでは。

答 徘徊の恐れがある高齢者の早期発見には大変有効な手段であり、今後研究したい。



市長の政治姿勢について
永島 守 議員

私はこの度、議員定数削減を提案しました。約束どおり採決結果を公表します。提案に賛成いただいた議員は川野栄美子、平木一朗、福永寛、箴島かおる、池末秀夫、永島守の6名、反対された議員は、井口嘉生、中村博満、古賀光子、岡秀昭、古賀龍彦、今村幸稔、吉川一寿、内藤栄治、水落常志の9名、反対議員の結束は固く、保身の壁は厚く、議席への執着は想像を遥かに超え、これでは市民の求める改革は当然望めるはずありません。

問 企業誘致への取り組みは。

答 優良な土地が必要で、企業誘致用地登録制度により情報収集し、人脈等最大限活用し積極的な働きかけを行う。

問 人材育成については。

答 まずは職員の意識改革に取り組みたい。

問 大川市の将来都市像については。

答 幸福と誇り、安全安心で子育てができるまちづくりを目指すとともに、多様な産業が生み出す大川の魅力について情報発信を行う。

問 有明海沿岸道路と道の駅については。

答 議員指摘の通過交通に終わらせることなく、道の駅や地域振興の核となる施設整備を行った場合の費用対効果等、今後研究したい。